

T O P I C

# きょうじん 強靱な国づくりと 北海道の貢献

～「北海道バックアップ拠点構想(案)」の概要～

北海道総合政策部計画推進局

## 〔構想策定に当たって〕

日本の歴史上、未曾有の被害をもたらした東日本大震災を契機に、効率性や市場メカニズムの重視といった、いわゆる「平時の論理」で進められてきた国土構造の脆弱さが浮き彫りになり、持続可能な社会の形成に向けては、今後想定される首都直下地震などの「非常時」を見据えた対策が喫緊の課題となっています。

こうした基本認識のもと、現在、道では、今後の大災害に備えた我が国全体のバックアップ体制のあり方を提起するとともに、その中で、北海道がバックアップ拠点として貢献していくための構想づくりを進めており、本年度末の取りまとめに向け、2月に取りまとめた構想案の概要を紹介します。

## 1 我が国全体のバックアップ体制の確立に向けて

### 〔バックアップ体制構築の必要性〕

- 今後高い確率で想定されている首都直下地震、東海・東南海・南海地震などの大災害に対する備え

- 東日本大震災からの早期の復興と震災を契機に再認識された課題の克服
- 食料やエネルギーの安全保障など、海外における重大リスクへの対応強化

### 〔目指す方向性〕

#### ① 多重・分散型の国土軸の形成と多極間ネットワークの強化

首都圏等に集中する経済や行政に関する諸機能の国内各地域への多重化・分散化を進め、多極間のネットワークを基本とした社会・経済システムへの転換を指向すべき。

#### ② 代替・支援機能の整備

災害発災直後の緊急的な支援活動をはじめ、復旧・復興の過程における国民生活や経済活動への支援、行政サービスの継続実施などに必要な代替・支援機能を整備すべき。

## 2 バックアップ拠点としての北海道の役割と可能性

明治の開拓期以来、北海道は、北方警備や食料・エネルギーの確保、移住者の受け入れなど、我が国の発展に貢献してきた。

「震災後」という大きな転換期にある中、北海道は、時代の要請に応じた新たな役割を発揮していくべきと考えており、これまでの北海道開拓・開発の経験や枠組みを活用するとともに、北海道の地域特性や優位性を活かしながら、バックアップ拠点の形成に向けた取組を積極的に推進する。

### 〔北海道が担うバックアップ機能〕

地域特性や優位性を踏まえ、北海道が担うべきバックアップ機能として、6つの機能を抽出し、拠点形成に向けた総合的な政策展開を図っていく。

— 6つのバックアップ機能と取組の方向性 —

① 食料・水の安定供給

- 国内への食料安定供給のための力強い生産体制の確立
- 大災害時等への対応も想定した食料備蓄・供給体制の充実
- 道産食品の生産・製造の拡大と安定供給の推進
- 水資源の保全と利活用の促進

② エネルギーの安定供給

- 再生可能エネルギーの開発・導入
- 環境負荷の少ないエネルギーの生産・備蓄・供給体制の強化
- 送電機能の強化

③ 国内分散型の産業活動の拠点形成

- データセンターなど本道の優位性を最大限に活かせる企業誘致の強化
- 首都圏等のオフィスや生産拠点の分散化の促進
- 被災企業等の受入促進
- 道内企業と首都圏等の企業との取引ルートの開拓・拡大

④ 国の行政機能の代替

- 行政機能の地方移転、分散化の促進
- 国の危機管理機能の再構築
- 国の行政情報の基盤及びバックアップ体制の強化

⑤ 被災地への緊急的支援

- 道外地域との相互支援体制の強化
- 道外被災地への人的支援や物資の備蓄・供給体制の強化
- 被災地の復旧・復興に要する資材の供給体制の整備

⑥ 一時避難や移住の受け入れ

- 被災者の一時避難の受け入れ体制の構築
- 本道への移住や二地域居住の受け入れ促進
- 夏季における長期滞在の受け入れ促進

〔道内各地域における拠点形成のあり方〕

上記6つのバックアップ機能を北海道が担っていくためには、道内各地域の特性に応じた拠点整備を進め

ていくことが必要であることから、道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室という6つの連携地域ごとに、バックアップ拠点の形成に向けた基本的な方向性等について提示する。

〈道央地域〉

- 大規模工業団地等を活用した太陽光発電や石油・LNGの備蓄、工場やデータセンターの立地、一時避難先の受け皿整備
- 首都圏の行政機能の代替・補完の受け皿として札幌市の都市機能の活用 など

〈道南地域〉

- 北海道新幹線の開業を視野に入れた企業誘致や移住の促進
- 農水産物などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化 など

〈道北地域〉

- 地震リスクの低さや冷涼な気候、雪氷冷熱などのエネルギーを活用した行政・企業等のデータバックアップ、オフィスや工場の移転・立地の受け皿としての拠点形成
- 風力や太陽光、バイオマスを活用した再生可能エネルギーの導入拡大 など

〈オホーツク地域〉

- 農水産物や加工食品などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化
- バイオマスや太陽光などを活用した再生可能エネルギーの導入拡大 など

〈十勝地域〉

- 農水産物や加工食品などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化
- バイオマスや太陽光などを活用した再生可能エネルギーの導入拡大 など

〈釧路・根室地域〉

- 物流拠点釧路港を活用した農水産物や加工食品などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化
- バイオマスや太陽光などを活用した再生可能エネルギーの導入拡大 など

### 〔バックアップ機能を発揮するための社会資本整備〕

全国各地域との連携のもとで、北海道が我が国のバックアップ拠点としての役割を最大限に発揮していくためには、大災害時における対応も想定し、平時から首都圏をはじめ全国各地域との「人」「モノ」「情報」の円滑な流れを確保するとともに、道内各地域におけるネットワークを充実していくことが不可欠である。

このため、国や関係機関、民間事業者等との連携のもとで、陸・海・空の交通ネットワークをはじめとした社会資本整備が着実に推進されるよう必要な取組を推進する。

#### ◆ 多重・分散型の国土形成と北日本の発展を加速する北海道新幹線の早期整備

- 札幌から鹿児島までの早期開通により、リスク分散のネットワークを日本全土に構築
- 新函館までの早期開業により、東北地方との経済交流や新産業の創出等が促進され、東日本大震災の復興に大きく貢献
- 札幌延伸により、北日本全体のポテンシャルを高め、東北地方の復興・発展を加速

#### ◆ 道外との物流拠点となる港湾の機能強化

- 太平洋側、日本海側それぞれの物流拠点となる港湾機能の充実、各港湾相互の連携強化などにより、大災害時における生活物資やエネルギー等の供給ルートを確実に確保

#### ◆ 道内外を結ぶ航空ネットワークの確保

- 陸路・海路に加え、道内空港の機能強化と道内外を結ぶ航空ネットワークの維持・充実により、道外各地域との円滑な人やモノの輸送が可能となるような複数の交通手段を確保

#### ◆ 高規格幹線道路を中心とした道内交通ネットワークの整備

- 道内各地域の連携によるバックアップ機能を最大限発揮するため、中核都市間をつなぐ高規格幹線道路をはじめ、道内の基幹交通ネットワークを早期に形成
- 津波被害時における海岸部の脆弱性を補完する内陸型ネットワーク整備を加速

#### ◆ 道内外をつなぐ情報・送電網の整備

- 道内各地域が連携し、バックアップ機能を担っていくため、災害に強く機動的な情報通信基盤を整備
- データセンターやオフィス等の立地、移転・分散化促進のため、道外と北海道をつなぐ基幹情報ネットワークを充実
- 送電網の整備や電力融通機能の強化により、多様な電源構成による安定した電力供給に貢献

### 〔構想の取りまとめと推進に向けて〕

この構想は、有識者の皆様で構成する懇談会（座長：小磯修二釧路公立大学学長）のご意見等も踏まえながら検討を進め、今年度末に取りまとめる予定です。

また、この構想の推進に当たっては、国、北海道を含む都道府県、市町村、民間事業者等が適切な役割分担と連携のもとで、総合的かつ計画的に施策を展開していくことが必要であることから、国において必要な取組が実施されるよう、様々な機会を通じて継続的な働きかけを行うとともに、道として主体的に取り組むべき施策の着実な推進に努めていきたいと考えています。